

授業にピタッ！とデジタル教科書

公民

④ 国際社会の学習でのデジタル教科書活用例 ～資料と関連づけた調べ学習で深い学びへ～

国立市立国立第一中学校 主任教諭 古田 一博(ふるた かずひろ)

◆単元名：第6章 国際社会に生きる私たち 2 国際社会が抱える課題と私たち

「① 終わらない地域紛争」(教科書 pp.208-209)

◆本時の目標：

地域紛争やテロリズムなどにより人々が国外へ逃れる背景と、難民生活にどのような困難が伴うかを理解し、受け入れ国でも難民の人々が尊厳を守りながら地元住民との対立を乗り越え、共生していくための手立てに関する考察を通じて、地域紛争がもたらす難民問題への理解を深める。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	【問】東京オリンピックの開会式で難民選手団が最初に入場したが、難民とはどのような人々をいうのだろう。また、難民選手団の出身国はどこが多いだろう。	・難民選手団の中で、特にシリアやアフガニスタンからの選手が多いことに着目し、デジタル教科書の地図と関連づける。	・入場行進の写真と選手団の名前、出身国、デジタル教科書〈p.209・ 5 「難民の出身国・地域別人数」〉を順次、スクリーンに映し出す。
展開 (35分)	<p>●冷戦後も多くの地域紛争が発生し、それに伴って多くの難民が発生していることを理解する。</p> <p>●難民保護のための国際的な枠組み(難民の地位に関する条約/UNHCR など)を確認する。</p> <p>【問】難民キャンプにはどのような課題があるか、班ごとに調査項目を二つ選び、調査しよう。</p> <p>《調査項目例(八つ)》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>食料/衛生/水/医療/教育/子ども /女性/地元住民との関係 など</p> </div> <p>●共同編集ができるアプリ等を用いて、調べた内容をまとめ、班員同士で課題を共有する。</p>	<p>・歴史の学習と関連づけて、歴史的な経緯が現在にも影響していることに着目させたい。</p> <p>・教科書p.70・3「難民の地位に関する条約」(1951年)をふり返り、各国によるその適用を監督する任務が、UNHCRにあることを確認する。</p> <p>・八つの調査項目例から、難民は、出身国での武力紛争や人権侵害の危険から逃れた後も、生活基盤や社会的なインフラが不十分な場所で暮らすことになるため、さまざまな困難に直面することに気づかせたい。</p> <p>・難民の増加と長期化は、受け入れ国にも経済的な負担となり、地元住民との対立や排斥運動につながるケースがあることにも着目させたい。</p>	<p>・デジタル教科書〈p.208・1「内戦による空爆を受けて逃げる人々」、4「アフリカの主な地域紛争」〉を順次、スクリーンに映し出す。</p> <p>・配布端末等を活用し、UNHCR や JICA 等のサイトから、難民キャンプが抱える課題について調べる。</p> <p>・デジタル教科書〈p.209・6「世界の難民数の推移」〉をスクリーンに映し出す。</p> <p>・各班で配布端末等を活用して、班で調べた内容をまとめる。</p> <p>* Google や Microsoft などのアプリ等を、適宜ご活用・ご併用ください。</p>
まとめ (10分)	【問】受け入れ国で難民の尊厳を守りながら、地元住民と共生していくためには、どのような手立てが必要だろうか。	・難民と受け入れ国、支援者の立場の違いを考慮しながら、多面的・多角的に考察させたい。	・班ごとに端末を活用して意見交換を行い、班で考察した内容をまとめる。

